

株式会社 日高振興公社

決算書類

第 32 期

自 令和 7 年 4 月 1 日
至 令和 8 年 3 月 31 日

株式会社日高振興公社 第32期 事業報告

1 事業の経過および成果

当事業年度における国内経済をみると、緩やかな回復基調を維持しつつも、物価高と海外リスクに揺れた一年でした。賃上げが実施される一方で、食品や外食費、特に米価格などの物価上昇が個人消費に与える影響に十分注意する必要がありました。特に後半は中東情勢による原油高が日本経済に影響し、エネルギー価格への警戒が強まりました。

令和7年度の神鍋高原の夏季（7・8月）入込数は約17万9千人（前期約14万6千人）、前期比123%となり、特に7月4日～6日開催の神鍋高原フェス「まんまる」により、7月の売上が前期比195%となるなど、大きな効果がありました。また、冬季（12月～3月）も前期同様、降雪に恵まれ、神鍋高原スキー場は約9万2,600人（前期約9万6,500人）、前期比96%となり、特に1月の売上は前期比115%となりました。

さらに、10月よりPOSレジ（スマレジ）を導入し、クレジットカード・QRコード決済等のキャッシュレス決済に幅広く対応しました。さらにIT導入補助金を活用し、導入コストを抑えながら業務改善を推進しました。11月末には道の駅改修工事が始まり、2月下旬から売店は仮設店舗での営業に移行するなど、次期に向けた大きな変革期となりました。

このような状況の下、当社は「地域と共に創る個性ある道の駅」を目指し、取り組んでまいりました。

従業員の職務能力向上を図るため、兵庫県道の駅連絡会や豊岡市商工会、豊岡市などによる経営コンサルタントのアドバイスを受け、商品開発や業務改善等に努めました。また、豊岡市、豊岡観光イノベーション、日高神鍋観光協会と共に観光庁の補助事業の地域魅力向上事業にも取り組み、「KANNABE ROOTS」プロジェクトを発足させ、地域活性化へ向け活動いたしました。

また、毎月開催している定例会議では、部門ごとに経費実態（部門別管理表・ランニングコスト推計表等）を月次検討し、部門別の課題の抽出を行いました。

さらに、イベント計画・商品開発・設備投資計画等、勉強会を適時実施しました。特に、当事業年度も経費削減、労務改善（就業規則・賃金等）の実施、改修工事に向けた運営等の検討についても全従業員で取り組みました。

○来客数

道の駅「神鍋高原」 136,121人（前期比：112% 前期差：14,521人）
神鍋温泉ゆとりぎ 64,713人（前期比：103% 前期差：1,761人）

結果、当事業年度における業績は、

売上高	258,981千円	（前期比：112% 前期差：28,267千円）
営業利益	3,514千円	（前期比：122% 前期差：643千円）
経常利益	13,459千円	（前期比：269% 前期差：8,459千円）
当期純利益	10,945千円	（前期純利益：4,788千円） （前期比：229% 前期差：6,157千円）

（1）道の駅「神鍋高原」

① 売店部門

当事業年度も物価高騰により、お土産物は年に2度の価格改定がある商品も多数ありま

した。また、農産物では4月頃は降水量が少なく、山菜の出荷量が減少し、7・8月は酷暑による蔓枯れでスイカの出荷量が減少するなど、気候が農作物に与える影響が年々大きくなり、安定した出荷が難しくなっています。

一方で、10月よりPOSレジ(スマレジ)を導入し、前期はPayPayのみでしたが、当期はクレジットカード、QRコード、電子マネー等、各種キャッシュレス決済に対応し、利便性が大幅に向上しました。また、客単価アップへの改善や冬季は積雪が多く、インバウンド客への対応ができました。

お土産物ではPB商品のキャベツチップ、日高みそナッツ煎餅、但馬のはちみつフィナンシェ、神鍋田舎蕎麦、瓦煎餅など、年間を通じて安定した販売実績を上げるなど、自社製品が好調でした。また、ほんまもん神鍋(とち餅)に次ぐ和菓子として、4月からよもぎ大福を販売し、年間約2万個、3,336千円を売上げました。

4月は第4回道の駅の日イベント、6月は第17回神鍋高原キャベツまつり、8月は第10回神鍋高原スイカまつり等を実施し、地元農産物・特産品の宣伝販売を実施しました。

7月は神鍋高原で初となる神鍋高原フェス「まんまる」が7月4日から6日まで開催され、3日間で約7,285千円の売上があり、7月は前期比199%でした。

2月下旬から道の駅改修工事に伴い、仮設店舗へ移動しました。案内表示や誘導看板、のぼり旗など整備し、週末には仮設店舗横にテントを張り試食販売を実施し、来客への周知に注力しました。

さらに、下記の商品を道の駅「神鍋高原」のおすすめ商品と位置付け、ポスターやSNS等と連動し、他店舗との差別化を図りました。

○ほんまもん神鍋	年間販売数：10,957 個	売上金額：7,670 千円
○神鍋高原スイカ	年間販売数：3,764 個	売上金額：6,459 千円
○豊岡ぶどう	年間販売数：5,047 個	売上金額：4,515 千円
○お米	年間販売数：998 個	売上金額：4,314 千円
○神鍋高原キャベツチップ	年間販売数：15,895 個	売上金額：3,419 千円
○よもぎ大福	年間販売数：20,339 個	売上金額：3,336 千円
○但馬のはちみつ	年間販売数：925 個	売上金額：2,907 千円
※年間売上金額の多い順番に並べています。		

② 飲食部門

当事業年度も原材料費の高騰による価格転嫁の難しさの中で、平日は十割蕎麦、土日祝日はランチビュッフェの2本柱で事業を展開しました。また、経営改善の為、コンサルタントの指導により、料理内容及び仕入れの見直し、客単価や粗利益率の向上を図りました。

平日の利用促進として、殿さんそばの製法を受け継ぎ、当期より手打ち十割そばを「神そば」として販売し、年間販売数5,084個、売上金額8,090千円となり、販売の主軸となりました。喫茶メニューとして山陰海岸ジオパーク内にあるヒラヤミルクを使用したソフトクリームに但馬のはちみつや直売所と連携し、季節のフルーツを使用したソフトクリームも大変好評でした。

土日祝日のランチビュッフェの利用客数は前年並みでしたが、食材費高騰により、価格改定を行い、客数16,437名(前期比98%)、売上金額22,952千円(前期比109%)となり、前期より客数365名減少、売上金額1,860千円増加となりました。また、当期もGW期間、夏休み・お盆期間、スキーシーズンは夜営業を行い、顧客満足度向上に努めました。

季節限定のイベントとして、7月・8月に「全但バス神鍋線利用促進イベント」の「神鍋Beer Night」を開催し、神鍋高原フェス「まんまる」の影響もあり、客数314名、売上金額1,062千円の利用がありました。2月の節分には前年好評の神鍋清流サーモンを使った恵方巻を108本販売し、大変好評でした。

新たな取り組みとして、コンサルタントにアドバイスを受け、日高みそを使用した「但馬ピーマンみそ」の販売や8月の大学生合宿の朝食・夕食利用、12月の年越しそばの予約販売を行いました。

広報として、HP・SNS等の発信強化やデジタルサイネージによりメニュー紹介、タッチパネル式券売機のレイアウト変更など、利用者の利便性向上に努めました。

年間を通して、季節感、イベント感をテーマに、SNS等での利用者の声を現場に反映しながら、サービス面の強化に結びました。

（２）神鍋温泉ゆとろぎ

当事業年度も継続して、衛生管理を徹底し、大事故もなく、通常営業をすることができました。入館者はスノーシーズンが好調であり、客数64,713名（前期比103%）、売上金額51,650千円（前期比105%）となり、前期より客数1,761名増加、売上金額2,228千円増加となりました。

当事業年度も物価高騰により、経営を圧迫していた燃料費を削減する為、木質ペレットの使用量を増やす予定でしたが、ボイラーの度重なる故障により、ガス使用量が増え、結果的に燃料費が8,498千円（前期比106%）となり、499千円増加しました。併せて、老朽化により、修繕費1,705千円（前期比152%）となり、584千円増加しました。また、節約できる部分として、水道光熱費・衛生費10,202千円、前期比97%、342千円改善しました。

スキー場は前年並みに積雪量も多く、営業日数79日（前期比105%）となり、「スキーリフト券利用者割引」の利用者も7,477名（前期比122%）と前年より大幅に増加しましたが、グリーンシーズンの「神鍋高原キャンプ場利用者割引」は3,991名（前期比71%）と利用者が大幅に減少しました。また、隣接している「フェアフィールド・バイ・マリOTT・兵庫神鍋高原利用者割引」は2,654名（前期比136%）となり、1月から3月のスノーシーズンに利用者が増加しました。定番の「JAFカード会員割引」6,048名（前期比83%）、「あいカード会員割引」3,831名（前期比84%）など、提携した割引サービスには一定の効果がありましたが、併せて協定割引の見直しも行いました。

入浴以外の売上金額は6,979千円、前期比117%、1,025千円増加しました。新たな取り組みとして、ワインコーナーの設置やサウナグッズ、Tシャツ等の販売ブースの拡大、また、豊岡市民農園と連携し、カブトムシの飼育・販売を行いました。

露天風呂について、毎月、四季を楽しむ季節湯を実施し、4月には但東チューリップまつりと連携したチューリップ湯、6月には神鍋よもぎ湯、12月はゆず湯を開催しました。3月は特別回数券の販売など、常連客やサウナで利用者が多い若者の利用促進につなげました。

決 算 報 告 書

第 32 期

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月 31日

株式会社 日高振興公社

兵庫県豊岡市日高町栗栖野59-13

貸借対照表

(単位：円)

株式会社 日高振興公社

令和 8年 3月31日現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流 動 資 産】	【 43,577,846】	【流 動 負 債】	【 19,023,557】
現 金 及 び 預 金	35,941,921	買 掛 金	1,494,993
売 掛 金	3,356,176	受 託 未 払 金	3,092,396
商 品	1,581,607	未 払 金	10,530,530
原 材 料	587,367	預 り 金	229,338
貯 蔵 品	1,560,979	預 り 敷 金	100,000
未 収 入 金	266,788	法 人 税 等 充 当 金	2,511,200
前 払 費 用	283,008	未 払 消 費 税	1,065,100
【固 定 資 産】	【 4,870,962】	負 債 の 部 計	19,023,557
(有 形 固 定 資 産)	(3,294,005)	純 資 産 の 部	
建 物	1,881,436		
建 物 付 属 設 備	280,795		
車 両 運 搬 具	270,362		
工 具 器 具 備 品	811,412		
一 括 償 却 資 産	50,000	【株 主 資 本】	【 34,546,668】
(無 形 固 定 資 産)	(1,426,957)	[資 本 金]	[36,000,000]
リサイクル預託金	7,430	[利 益 剰 余 金]	[Δ1,453,332]
ソ フ ト ウ ェ ア	1,419,527	利 益 準 備 金	9,000,000
(投資その他の資産)	(150,000)	(その他利益剰余金)	(Δ10,453,332)
保 証 金	150,000	繰 越 利 益 剰 余 金	Δ10,453,332
【繰 延 資 産】	【 5,121,417】	(うち当期純利益)	(10,945,357)
開 発 費	5,121,417	純 資 産 の 部 計	34,546,668
資 産 の 部 計	53,570,225	負 債 ・ 純 資 産 の 部 計	53,570,225

損 益 計 算 書

(単位：円)

自 令和 7年 4月 1日

株式会社 日高振興公社

至 令和 8年 3月31日

科 目	金 額	
【売 上 高】		
売 店 売 上	155,321,011	
市事業委託料等	3,671,384	
レストラン売上	47,625,633	
温 泉 売 上	52,363,092	258,981,120
【売 上 原 価】		
期 首 棚 卸 高	1,353,084	
仕 入 高	114,388,304	
材 料 費	17,023,976	
合 計	132,765,364	
期 末 棚 卸 高	2,168,974	130,596,390
売 上 総 利 益		128,384,730
【販売費及び一般管理費】		124,870,753
営 業 利 益		3,513,977
【営 業 外 収 益】		
受 取 利 息	20,094	
雑 収 入	9,924,557	9,944,651
経 常 利 益		13,458,628
【特 別 利 益】		
国 庫 補 助 金	3,465,570	3,465,570
【特 別 損 失】		
固 定 資 産 圧 縮 損	3,465,570	3,465,570
税引前当期純利益		13,458,628
法人税等充当額		2,513,271
当 期 純 利 益		10,945,357

販売費・一般管理費内訳書

(単位：円)

自 令和 7年 4月 1日

株式会社 日高振興公社

至 令和 8年 3月31日

科 目	金 額	
役 員 報 酬	5,411,000	
給 料 手 当	33,784,845	
福 利 厚 生 費	6,994,946	
雑 給	14,329,178	
シルバー委託費	2,200,611	
広 告 宣 伝 費	4,928,729	
運 賃	106,910	
外 注 費	1,122,100	
燃 料 費	8,662,077	
衛 生 費	5,661,854	
業 務 委 託 費	3,000,000	
一括資産償却費	211,230	
水 道 光 熱 費	13,538,718	
会 議 費	68,824	
事 務 費	1,630,678	
消 耗 品 費	4,284,642	
地 代 家 賃	38,100	
支 払 保 険 料	625,959	
修 繕 費	2,462,861	
租 税 公 課	5,381,400	
減 価 償 却 費	2,095,376	
接 待 交 際 費	745,713	
旅 費 交 通 費	359,177	
通 信 費	380,289	
支 払 手 数 料	4,908,755	
賃 借 料	1,068,196	
諸 会 費	396,215	
繰延資産償却費	213,583	
購 読 費	51,700	
雑 費	207,087	
合 計		124,870,753

株主資本等変動計算書

株式会社 日高振興公社

(単位：円)

自 令和 7年 4月 1日
至 令和 8年 3月31日

	株 主 資 本						株 主 資 本 合 計	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	新 株 予 約 権	純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金	自 己 株 式				
当期首残高	36,000,000			9,000,000	△21,398,689		23,601,311			23,601,311
当期変動額										
当期純利益					10,945,357		10,945,357			10,945,357
当期変動額合計					10,945,357		10,945,357			10,945,357
当期末残高	36,000,000			9,000,000	△10,453,332		34,546,668			34,546,668

	利 益 剰 余 金 の 内 訳		
	利 益 準 備 金	繰 越 利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金 合 計
当期首残高	9,000,000	△21,398,689	△12,398,689
当期変動額			
当期純利益		10,945,357	10,945,357
当期変動額合計		10,945,357	10,945,357
当期末残高	9,000,000	△10,453,332	△1,453,332

個 別 注 記 表

株式会社 日高振興公社

自 令和 7年 4月 1日

至 令和 8年 3月31日

この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成している。

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

たな卸資産の評価基準及び評価方法

原材料・商品・貯蔵品……最終仕入原価法による原価法

固定資産の減価償却の方法

有形固定資産……平成10年4月1日以後に取得した建物及び平成28年4月1日以後に

取得した建物附属設備・構築物は定額法、それ以外は定率法

無形固定資産……定額法

収益及び費用の計上基準

原則として収益は実現主義により、費用は発生主義により計上している。

その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理……税込方式で計上している。

2. 貸借対照表に関する注記

有形固定資産から直接控除した減価償却累計額の合計額……37,911,821円

無形固定資産から直接控除した減価償却累計額の合計額……2,132,159円

3. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末日における発行済株式の数……720株

当事業年度末日における自己株式の数……0株

4. 1 株当たり情報に関する注記

1 株当たりの純資産額……47,981円48銭

1 株当たりの当期純利益……15,201円88銭

(単位：千円)

2 事業実績

(1) 事業別の売上高 (単位：千円)

施設名	売店部門	飲食部門	温泉部門	市受託料	合計
道の駅「神鍋高原」	155,011	47,626		3,671	206,308
神鍋温泉ゆとろぎ			52,363		52,363
農産物加工所	310				310
合 計	155,321	47,626	52,363	3,671	258,981

(2) 売上高の推移 (単位：千円)

区 分	第 28 期	第 29 期	第 30 期	第 31 期	第 32 期
売店部門	107,367	117,447	117,441	142,941	155,011
飲食部門	21,622	24,576	30,270	33,790	47,626
温泉部門	39,483	37,343	37,857	49,516	52,363
市受託料	4,024	4,227	4,327	4,467	3,671
合 計	172,496	183,593	189,895	230,714	258,981

(3) 営業成績、財産状況の推移 (単位：千円)

区 分	第 28 期	第 29 期	第 30 期	第 31 期	第 32 期
経常利益	2,302	△2,266	△5,972	5,000	13,459
当期純利益	1,572	△2,476	△6,183	4,788	10,945
総資産	72,338	70,580	35,207	44,147	53,570
純資産	27,472	24,996	18,813	23,601	34,547

3 当社の現状

(1) 資本金の推移

(単位：千円)

区 分	当期末	前期末	増減
資 本 金	36,000	36,000	0

(注) ① 平成 6 年 4 月 28 日

発行株式数 600 株 1 株につき 50,000 円

② 平成 6 年 8 月 11 日

発行株式数 120 株 1 株につき 50,000 円

(2) 株式の状況

① 株式数（発行済み株式の総数）720 株

② 当期末株主数 13 名

(3) 従業員の状況（令和8年3月31日現在）

(単位：人)

区 分	当期	前期末	増減
男 性	11	6	5
女 性	17	16	1
合 計	28	22	6

(4) 業務の状況

施 設 名	業 務 内 容
道の駅「神鍋高原」	売店(農産物直売所含む)、レストランの経営管理
神鍋温泉ゆとろぎ	温泉入浴の経営管理
農産物加工所	特産品の加工及び施設管理

(5) 取締役ならびに監査役

	役 職 名	氏 名
1	代 表 取 締 役	岡 森 且 哉
2	専 務 取 締 役	池 田 敬 一
3	取 締 役	柳 沢 和 男
4	取 締 役	西 田 清
5	取 締 役	村 上 勝 幸
6	取 締 役	岡 藤 泰 明
7	監 査 役	太 田 垣 健 二
8	監 査 役	玉 置 孝 至

4 対処すべき課題

当社は、以下の点を主な経営課題と捉えております。

- ① 累積欠損金の解消
- ② 働き方改革と人材育成
- ③ 粗利益率向上
- ④ インバウンド誘客と創生連携
- ⑤ 老朽設備の計画的更新

【第33期事業計画（2026年度）】

基本方針

- ・「累積欠損金の完全解消」による財務健全化の達成
- ・「道の駅リニューアル後の新施設を最大活用」した収益拡大への転換
- ・「本業の稼ぐ力」強化（営業利益率 6.0%以上の実現）
- ・「人件費率・原価率の継続的改善」による持続的黒字経営の確立

目標数値（KPI）

指 標	目 標 値	備 考
売上高	2 億 7,711 万円（前期比 107.0%）	全部門増収・リニューアル後 8 月～フル稼働
営業利益率	6.0%以上	本業の稼ぐ力強化（補助金依存からの脱却）
経常利益率	6.4%以上	営業外収益は補助金を見込まず
人件費率	22%台以下	繁閑シフト管理精緻化・シルバー委託活用（現状 24.2%）
売上総利益率	52%以上	原価率 49%以下（仕入コスト適正化・ロス削減）
累積欠損金	完全解消（0 円）	△10,453 千円→ゼロへ ★最優先財務目標

主要施策

【Ⅰ】売上拡大戦略

(1) 売店部門（目標：163,536 千円）

- ・リニューアル新売場での PB 商品陳列刷新・高付加価値商品ラインナップ強化
- ・農産物直売所の仕入先・品目拡充（第 32 期計画比 87%の反省を踏まえ計画達成を確実に）
- ・売店¥1,629→¥1,700 への客単価向上（高粗利商品の重点配置）
- ・SNS・EC 販売の継続強化

(2) レストラン部門（目標：56,811 千円）

- ・リニューアル新施設によるランチビュッフェの質・回転率向上
- ・ディナービュッフェ期間限定営業の確立・平日客単価の底上げ
- ・神そばを年間主力として確立、更なるファン作り。テイクアウト・予約弁当の拡充
- ・アグリガーデンプロデューサー招致による更なる食の魅力向上（目標飲食客単価¥1,250）

(3) 温泉部門（目標：53,114 千円）

- ・サウナの魅力 PR、滞在時間増での質向上でリピーター獲得
- ・提携割引の見直し（効果低い協定の廃止・高効果協定の拡充）で収益性を改善
- ・回数券の積極販売によるキャッシュフローの安定化（目標客単価¥800）
- ・温泉×飲食の組み合わせ利用促進（セット割引・食事後温泉プラン）

【Ⅱ】コスト最適化戦略

- ・人件費率 22%台への改善：繁閑に応じたシフト管理の精緻化・シルバー委託の活用拡大（現状 24.2%→22%台）※シフト管理ソフト導入にて時間帯でのピンポイントシフトを活用

- ・支払手数料 Δ10%以上削減：決済内容の見直し・再交渉（現状 4,909 千円→目標 4,400 千円以下）
- ・光熱費削減の継続：改修後の新設備（ボイラー更新等）による効率向上（現状 13,539 千円→13,500 千円以下）
- ・仕入先複数社比較・食材ロス削減で売上総利益率 49.6%→52%以上へ
- ・不要なリース・賃借料の見直し（第 32 期比 Δ△5%目標）

【Ⅲ】集客・販促戦略

- ・神鍋イチョウ並木まつり（10 月下旬～12 月初旬）でリニューアルオープンと同時に「神鍋の魅力」を全力発信
- ・わんぱくテラスにてペット愛好家の誘客
- ・SNS 運用継続強化（週 2 回以上投稿・イベント情報・新商品配信）
- ・地域限定旅行業資格（令和 6 年取得）を活かした体験型旅行プランの造成・販売
- ・旅行会社・バス会社向け団体プラン平日予約団体獲得。（温泉+飲食+体験）の拡充
- ・キャッシュレス決済の安定運用による顧客利便性向上と客単価向上の継続

【Ⅳ】設備投資・リスク管理

- ・道の駅リニューアル後の設備管理体制の確立（ボイラー等の計画保守・予防保全）
- ・年 2 回の全館点検の実施（事前故障リスク対応・修繕費の計画的抑制）
- ・スマレジ（POS）の安定運用・データ活用による販売管理の高度化
- ・改修後設備の減価償却計画の確立（費用対効果の継続的管理）

【年度スケジュール】

四半期	重点テーマ
4～7 月	改修工事期：仮設店舗での売上最大化（目標前期比 70%）、費用徹底管理、リニューアル準備（新メニュー開発・スタッフ研修）、「イチョウ並木まつり」に向けた集客企画完成。インフルエンサー活用の PR 実施
8～9 月	リニューアルグランドオープン：新施設フル稼働開始、飲食部門の本格拡大、全部門リニューアル効果の最大化、年間売上の約 16%が集中する 8 月を最重要月と位置付け
10～12 月	秋観光シーズン強化・ギフト商戦：農産物直売所の秋出荷最大化、ギフトカタログ販売強化、年越しそばの販売拡大、年末設備点検・メンテナンス実施
1～3 月	冬季集客強化・春商戦準備：スキー場連携による温泉集客促進、回数券・定期利用の促進、翌期第 34 期春商戦の準備・WEB 販売・リフト券連携。レストラン 夜営業開始

【まとめ】

第 33 期は、道の駅リニューアルを最大のチャンスとして捉え、「累積欠損金の完全解消」「営業利益率 6.0%以上の実現」「売上高 2 億 7,711 万円の達成」を三大目標とし、改修工事期（4～7 月）の売上低迷を最小化しながら、リニューアル後（8 月～）の成長を最大化する経営を実行します。

この目標達成に向け、経営・現場一体となった実行計画を徹底し、令和 9 年度（第 34 期）の株主配当実現への確実な一歩を踏み出します。

予 定 損 益 計 算 書

株式会社 日高振興公社

自 令和 8 年 4 月 1 日
至 令和 9 年 3 月 31 日

科 目	金 額	(円)
(営業損益の部)		円
【売上高】		
売 上	273,461,000	
受 託 料 等	3,650,000	
		277,111,000
【売上原価】		
期 首 棚 卸 高	2,169,000	
仕 入 高	113,500,000	
材 料 費	18,131,000	
合 計	133,800,000	
期 末 棚 卸 高	2,169,000	131,631,000
売 上 総 利 益		145,480,000
【販売費及び一般管理費】		129,005,000
営 業 利 益		16,475,000
(営業外損益の部)		
【営業外収益】		
受 取 利 息	20,000	
雑 収 入	1,250,000	1,270,000
【営業外費用】		
支 払 利 息 等		
雑 損 失		
経 常 利 益		17,745,000

予 定 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 内 訳 書

株式会社 日高振興公社

自 令和 8 年 4 月 1 日

至 令和 9 年 3 月 31 日

科 目	金 額
役員報酬	5,500,000
給料手当	35,000,000
退職給与引当金戻入	0
福利厚生費	7,500,000
雑給	13,700,000
シルバー委託費	3,400,000
広告宣伝費	4,500,000
運賃	120,000
外注費	1,200,000
燃料費	8,500,000
衛生費	5,700,000
業務委託費	3,000,000
一括資産償却費	250,000
水道光熱費	13,500,000
会議費	70,000
事務費	1,600,000
消耗品費	5,300,000
地代家賃	38,000
支払保険料	640,000
修繕費	2,000,000
租税公課	5,500,000
減価償却費	3,500,000
接待交際費	700,000
旅費交通費	400,000
通信費	400,000
支払手数料	4,400,000
賃借料	1,000,000
諸会費	380,000
購読費	50,000
雑費	1,157,000
合 計	129,005,000